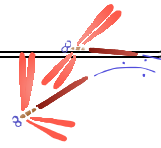




王桜中だより

第6号 令和5年9月

北立王子桜中学校
校長 吉原 健



「不利益」のススメ

校長 吉原 健

長い夏休みが終わり、生徒たちの元気な声が学校に戻ってきました！この夏の努力や頑張りの成果を生かして、生徒一人一人が実りの秋に向かって飛躍してほしいと願います。

さて、先日私が電車に乗っていた時のことです。混んだ車内に親子連れが乗り込んで来ました。お父さんに前抱っこされていたのは、まだ1~2歳くらいの女の子です。混んで暑い車内が不快なのか、女の子は大きな声でぐずっています。ほどなく空いた席に親子は座りましたが、女の子のぐずりは一向に収まりません。その時お父さんは自分のスマホをサッと女の子に渡したのです。すると女の子はピタッとぐずりを止めて、スマホの画面を夢中で触りだしたのです。

その光景を見ていて、スマホの威力はすごいな！と感心しつつも、「これでいいのかな？」という疑問も湧いてきました。スマホは女の子を一瞬で静かにさせる便利な道具として使われているのです。スマホがなかった時代、小さな子が電車に乗ると、靴を脱いで車窓に体を向けて正座しながら外の景色を見続けることが多かったと記憶しています。そして隣にいるお母さんなどが子どもと笑顔でやり取りしながら、一緒に車窓の外を眺めていたように覚えています。

その親子はとうとう電車を降りるまで、ひと言も会話することはありませんでした。お母さんも自分の子がスマホで静かになったのを見て安心したのか、夢中でスマホをいじっています。

この夏に「不利益のススメ」という本を読みました。この本の中で著書の川上浩司さんは、「果たして便利なことは必ず有益なことでしょうか？」という問いを問いかけています。

たとえば、平らな園庭より不便なデコボコの園庭の方が、園児を生き生きと工夫して活動させることができます。バリアフリーより不便なバリアフリーの方が、身体能力の衰えを緩やかにするかもしれません。またツアーバスに連れて行ってもらうより、不便な自前のバス旅行の方が思い出に残ることがあるかもしれません。こうして考えると、私たちは便利さや合理性を追求することで、逆に失われるものもあるといえないでしょうか？

私はこの「不利益」の考え方は、教育にも当てはまるのではないかと考えています。時間の効率化や合理性を考えると、ICTは大変便利なツールです。しかし、実際に見る、聞く、匂いを嗅ぐ、味わう、触る…といった五感をフルに使う体験はできません。直接体験による失敗や不快さや残念さを味わうことも子どもたちの感性や想像力を養う上ではとても大切です。

授業においても、最短で正解に辿り着くスキルを身に付けるのではなく、試行錯誤しながらも苦勞して問いの追究に向かうことで、新たな発見や気づきがあると思っています。

学ぶ楽しさや喜びを味わうためには、生徒が学習材との対話に没頭する時間を確保することも必要です。こうした視点を大切にして9月からの授業や教育活動を充実させてまいります。

引き続き保護者や地域の皆様方のご理解とご協力をいただければ幸いです。

参考図書：「不利益のススメ(川上浩司著)」岩波ジュニア新書

9月の行事予定

日	曜日	9月行事予定	日	曜日	9月行事予定
1	金	全校集会 避難訓練 部活動再登校 16時	18	月	敬老の日
2	土	土曜授業⑤ 3年修学旅行前日指導	19	火	採点日(午後 原則部活動なし)
3	日	3年修学旅行(9/3~9/5)	20	水	答案返却開始 生徒会役員選挙運動始
6	水	3年振替休業日	21	木	専門委員会
7	木	定期考査1週間前(原則部活動なし)	22	金	北区連合体育大会(新河岸陸上競技場)
11	月	全校朝礼・安全指導	25	月	連合体育大会予備日
13	水	北区教育研究会(午前授業) 定時退勤日	26	火	中央委員会
14	木	定期考査II	27	水	学校ファミリーの日 部活動再登校 16時
15	金	定期考査II (午後採点日 部活動なし)	29	金	生徒会役員選挙リハ 英検②

夏の部活動を応援して…



この夏休み中、いくつかの部活動の大会やコンクールの応援に行ってきた。



一瞬にして勝負が決する剣道の試合…片時も目を離してられませんでした。バレーボールの試合では劣勢から少しずつ巻き返していく粘り強さに思わず手に汗を握りました。関東大会では3年生のS.Tさんの走り幅跳び助走前の緊迫感に時間が止まったようでした。都の吹奏楽コンクールでは、ホール全体を包む重圧と緊張の中、吹奏楽部が素晴らしい演奏を披露してくれました。「すべての生徒に早く聞かせたい！」と心から思いました。

こうした王桜生の活躍を生で見ることができ幸せを感じています。どの会場に行っても多くの保護者が応援に足を運んでくださり、3年間彼らに寄り添い支えてくれたことを感じました。悔しい場面もありましたが、その悔しさは必ず彼らの成長の糧になるはず。また、より上の大会に行けないと見えない景色があると彼らも感じたはず。「まだまだ力が足りない…」と知ることはとても大切なことだと思います。



努力して高みを目指すことは大変なことです。高みに辿り着いたからこそ味わえる達成感や成就感もあります。しかし高みに行くと、もっと努力している人や自分に足りないものがよく見えてきます。そこであきらめずに再び歩き出す人は、人間としての成長を獲得できるのだと改めて実感しました。



実りの秋に向かって…



今年度がスタートして、4年ぶりの制限なしの体育祭や職場体験学習(2年)などの教育活動も乗り越え、大きな成果をあげてきました。生徒会や委員会、部活動でも最高学年である3年生を中心とする積極的な取組が見られました。生徒たちが王桜中の目指す「自主」の学校文化をよく理解してくれ、自分たちで育てていることをうれしく思います。

またボランティア活動や地域の児童館との交流についても、多くの有志生徒の参加を得て、よりよい学校や地域に貢献しようとする気運が醸成されています。

9月からは、さっそく3年生修学旅行(9/3~5)や1学期末定期考査(9/14~15)、北区連合体育大会(9/22)、文化祭(10/21)、北区連合音楽会(10/31)、北区連合学芸会(11/2)…といった大きな行事が目白押しです。さらに今年度は待ちに待った北区中学生海外派遣事業が再開されることになりました。本校からも4名の派遣生(2年生)が北区の代表として海外派遣に参加することになりました。11/7~11/17までの11日間の日程です。アメリカ合衆国カリフォルニア州ウォルナットクリーク市にあるセブンヒルズスクールの皆さんとの交流を深めて来る予定です。

これら一つ一つが王桜中の「自主」の文化を育み、発展させる萌芽となることを強く期待しています。7月の全校集会で文化祭実行委員長のUさんが「生徒一人一人が主役となり、クラスそして学校全体が一つの大きなチームとなって…」と全校生徒に語りかけました。この言葉を生徒と教職員が一体となって、この秋から実現させていきたいと思っています。



そばにいてあげる…

長い夏休みが終わり、久しぶりの学校生活に何となく不安な気持ちを抱えている生徒もいるかもしれません。先日の朝刊に都内中学2年生のこんな意見が掲載されていました…。

「(悩んだら)『誰かに相談しな』って言われても相談できないよね…」
「『私は大丈夫!』いつもこう言っている人ほど大丈夫ではない。もし周りにそういう人がいるなら、私はそばにいてあげたい…」

この中学生はケアの本質をよく理解していると感じました。大人が子どものSOSを受け止めることも大事ですが、子ども同士の“支え合う”関係性を育てることも必要だと考えます。

そして親子の関係も、生徒と教師の関係も、そして生徒同士の関係も、相手がつらい思いをしているときに「そばにいてあげる」ことが相手の気持ちを少しでも軽くする道だと感じます。

